

平成24年4月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成24年3月8日

上場取引所 大

上場会社名 株式会社 テンポスバスターズ
 コード番号 2751 URL <http://www.tenpos.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長
 問合せ先責任者 (役職名) 管理部長
 四半期報告書提出予定日 平成24年3月13日
 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(氏名) 森下 和光
 (氏名) 毛利 聡

TEL 03-3736-0319

(百万円未満切捨て)

1. 平成24年4月期第3四半期の連結業績(平成23年5月1日～平成24年1月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
24年4月期第3四半期	10,740	28.5	814	39.7	860	41.8	463	118.2
23年4月期第3四半期	8,360	△6.6	583	11.4	606	12.1	212	△13.5

(注) 包括利益 24年4月期第3四半期 510百万円 (138.2%) 23年4月期第3四半期 214百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
24年4月期第3四半期	11,726.81	—
23年4月期第3四半期	5,373.33	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
24年4月期第3四半期	4,685	3,107	60.1
23年4月期	4,616	2,687	51.5

(参考) 自己資本 24年4月期第3四半期 2,817百万円 23年4月期 2,376百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
23年4月期	—	0.00	—	900.00	900.00
24年4月期	—	0.00	—	—	—
24年4月期(予想)	—	—	—	900.00	900.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成24年4月期の連結業績予想(平成23年5月1日～平成24年4月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	14,000	27.4	1,000	26.2	1,100	31.1	650	72.7	16,428.66

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

4. その他

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

24年4月期3Q	47,716 株	23年4月期	47,716 株
----------	----------	--------	----------

② 期末自己株式数

24年4月期3Q	8,151 株	23年4月期	8,151 株
----------	---------	--------	---------

③ 期中平均株式数(四半期累計)

24年4月期3Q	39,565 株	23年4月期3Q	39,565 株
----------	----------	----------	----------

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

・この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P2「経営成績に関する分析」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	4
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	4
2. サマリー情報(その他)に関する事項	5
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	5
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	5
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	5
3. 継続企業の前提に関する重要事象等の概要	5
4. 四半期連結財務諸表	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
四半期連結損益計算書	8
四半期連結包括利益計算書	9
(3) 継続企業の前提に関する注記	10
(4) セグメント情報等	10
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	10
(6) 重要な後発事象	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間（平成23年5月1日～平成24年1月31日）における当社の中心顧客である外食産業におきましては、個人消費者の外食支出に対する低価格化の定着や、それに伴う企業間の低価格化競争の継続や、食材の安定供給問題等を抱え、依然として厳しい経営環境が続いております。

このような状況の中で、当社グループは引き続き、今期の方針である「フードビジネスプロデューサー（以下：FBP）化」、「中古2倍」「早期戦力化」の3つを中心に活動してまいりました。

当第3四半期連結累計期間の連結業績は、売上高が107億40百万円（前年同期比28.5%増）、営業利益が8億14百万円（同39.7%増）、経常利益が8億60百万円（同41.8%増）となりました。

事業部門別の概況は次のとおりであります。

飲食店向け機器販売事業部門につきましては、引き続き今期方針に則り継続して事業を行いました。「FBP化」につきましては、飲食店経営者向けのセミナーの開催や新規開業者向けの相談会の開催を行い、そこから提案営業による販売促進に注力いたしました。また、それらを実行するための社内研修や、勉強会も実施しております。それに加え、各店舗において見込のお客様の管理を、見込管理と見込フォローに区分けし、接客時にお客様との会話の中でヒアリングしなければならない項目を店長が徹底的に教育することにより、販売員一人当たり売上及び粗利の追求を行っております。さらに、「FBP化」の一環として、飲食店舗である株式会社あさくま（以下：あさくま）で実際の飲食店の運営やFC本部の体制構築を、当社社員に学ばせることにより、お客様の飲食店経営の相談に乗ることができるようにし、FC化を検討するお客様に対しては、FC本部体制構築のノウハウを提供できるような教育を推し進めております。「中古2倍」につきましては、引き続き計画を超えて推移しており、開店時のコストを抑えたいお客様向けの一式受注増となっております。「早期戦力化」につきましては、パート社員の戦力化に着手し、短期間で現在の店長レベルまでパート社員の質を引き上げることを目標に、新たな教育体系の確立、給与制度の改定等のシミュレーションを行っております。

また、同事業では、社長及び先代社長である創業者が複数店舗を経営する飲食企業向けにトップ営業を行い、そこから頂いた案件をFBP社員が受注していくという、新たな営業形態にも取り組み始めております。これにより、これまではリサイクル品の買取中心であった大手飲食企業への実績も着実に成果として表れております。

飲食店向けの販促支援及びASP提供等を主たる業務とするテンポス情報館につきましては、当社店舗内への営業所開設を新たに札幌・仙台で行い、合計12拠点となりました。これにより、当社店舗とのシナジー効果がこれまで以上に発揮できる環境となっており、同事業の業績へ寄与しております。

インターネット販売につきましては、お勧めの一品のTOPページ紹介や、当社オリジナル椅子の特集ページ作成といったサイト構成の変更や特集ページのリニューアルを定期的に行い、アクセス数の増加に結び付けました。その結果、サイト全体のアクセス数は前年比115.1%となり、売上高増加に貢献しております。また、当社サイトの飲食店向けポータルサイト化の先駆けとして、当社各店舗で開催される各種セミナーのスケジュールを掲載するページを作成し、お客様への情報提供の場となる取り組みを始めております。

同事業の当第3四半期連結累計期間の売上高は78億8百万円（前年同期比7.0%増）、営業利益は7億11百万円（同16.3%増）となっております。

飲食事業部門につきましては、あさくまの業績好調により計画以上の成果を上げております。これは、飲食業界全体の景況感が奮わない中で、あさくまの業界内のポジション変更を行ったことに起因するものであります。具体的には、これまで客単価1,700円前後のランチ・ディナーを中心に提供する業態であったものを、客単価1,500円まで引き下げ、競合他社が多いながらも、時代に支持される価格帯への変革を行ったことでもあります。あさくまは、価格帯を下げながらもクオリティの高い商品を提供し、定期的なイベントを開催することにより、お客様の支持を得ることに成功しております。

また、あさくまの新業態であるBISTROTは、平成23年6月20日にBISTROT九段下店（東京都千代田区）をオープン後、順調に業績を伸ばし、平成24年3月1日に、BISTROT飯田橋店（東京都千代田区）、BISTROT神保町店（東京都千代田区）を同時オープンいたしました。

あさくまでは、ステーキ・ハンバーグレストラン業態の「あさくま」ブランドと、ビストロ業態の「BISTROT」ブランドにてFC加盟店の募集を行っており、すでに多くのお問い合わせを頂いております。

同事業の当第3四半期連結累計期間の売上高は23億65百万円、営業利益は1億3百万円となっております。

リース・クレジット取扱事業部門につきましては、第2四半期に引き続き店舗からの紹介案件の増加及び新規取引先の開拓を行い、増収増益となっております。また、与信判断につきましても厳格な審査を継続し、堅実な事業運営を行っております。

同事業の当第3四半期連結累計期間の売上高は5億29百万円（前年同期比25.9%増）、営業利益は10百万円（同109.6%増）となっております。

その他事業部門につきましては、不動産サブリースを行っており、引き続き安定した収益を上げております。

同事業の当第3四半期連結累計期間の売上高は38百万円（前年同期比43.0%減）、営業利益は11百万円（同45.3%減）となっております。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

財政状態の分析

当第3四半期連結会計期間末の総資産は46億85百万円となり、前連結会計年度末に比べ69百万円増加しました。その内容は、以下のとおりであります。

(流動資産)

当第3四半期連結会計期間末における流動資産の残高は28億円となり、前連結会計年度末に比べて67百万円増加いたしました。主因はたな卸資産で1億14百万円増加しましたが、繰延税金資産で59百万円の減少があったことによるものです。

(固定資産)

当第3四半期連結会計期間末における固定資産の残高は18億85百万円となり、前連結会計年度末に比べて2百万円増加いたしました。

(流動負債)

当第3四半期連結会計期間末における流動負債の残高14億50百万円となり、前連結会計年度末に比べて2億40百万円減少いたしました。主因は支払手形及び買掛金で1億51百万円、短期借入金で77百万円、1年内返済予定の長期借入金89百万円、賞与引当金で71百万円の減少がありましたが、未払法人税等で1億40百万円増加したことによるものです。

(固定負債)

当第3四半期連結会計期間末における固定負債の残高は1億27百万円となり、前連結会計年度末に比べて1億9百万円減少いたしました。主因は長期借入金で1億4百万円減少したことによります。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末の純資産合計は、前連結会計年度末に比べて4億19百万円増加し、31億7百万円となりました。これは利益剰余金で4億40百万円が増加し、少数株主持分で20百万円減少したことによります。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

連結の業績予想につきましては、平成23年12月1日公表の「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. サマリー情報(その他)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

テンポス飲み喰いファンド投資組合は、平成23年6月15日をもって精算したため、及び株式会社STUDIO1010は、業績等の重要性が低下したため、第1四半期連結会計期間より、連結子会社から除外しました。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等の概要

該当事項はありません。

4. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年4月30日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年1月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	914	931
受取手形及び売掛金	215	204
たな卸資産	1,408	1,523
短期貸付金	4	11
繰延税金資産	119	60
その他	74	72
貸倒引当金	△4	△4
流動資産合計	2,732	2,800
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	453	437
機械装置及び運搬具（純額）	13	13
土地	87	87
その他（純額）	32	23
有形固定資産合計	587	563
無形固定資産		
のれん	119	114
その他	28	29
無形固定資産合計	148	144
投資その他の資産		
投資有価証券	229	222
関係会社株式	100	182
長期貸付金	447	427
長期未収入金	64	60
敷金及び保証金	505	511
繰延税金資産	103	73
その他	33	31
貸倒引当金	△336	△330
投資その他の資産合計	1,147	1,178
固定資産合計	1,883	1,885
資産合計	4,616	4,685

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年4月30日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年1月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	748	596
短期借入金	129	52
1年内返済予定の長期借入金	179	89
未払法人税等	50	191
賞与引当金	146	74
製品保証引当金	10	13
その他	426	432
流動負債合計	1,690	1,450
固定負債		
長期借入金	189	85
長期預り敷金	7	8
その他	40	34
固定負債合計	237	127
負債合計	1,928	1,578
純資産の部		
株主資本		
資本金	509	509
資本剰余金	472	472
利益剰余金	2,217	2,657
自己株式	△821	△821
株主資本合計	2,376	2,817
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	—	△0
その他の包括利益累計額合計	—	△0
少数株主持分	310	290
純資産合計	2,687	3,107
負債純資産合計	4,616	4,685

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 四半期連結損益計算書
 第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成22年5月1日 至平成23年1月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年5月1日 至平成24年1月31日)
売上高	8,360	10,740
売上原価	5,466	6,378
売上総利益	2,894	4,362
販売費及び一般管理費	2,311	3,548
営業利益	583	814
営業外収益		
受取利息	10	7
持分法による投資利益	24	28
その他	15	22
営業外収益合計	50	58
営業外費用		
支払利息	8	11
支払手数料	1	—
その他	16	0
営業外費用合計	27	12
経常利益	606	860
特別利益		
賞与引当金戻入額	3	1
関係会社株式売却益	3	1
その他	1	0
特別利益合計	8	2
特別損失		
貸倒引当金繰入額	131	4
投資有価証券評価損	99	—
子会社清算損	38	—
固定資産除却損	16	6
その他	3	—
特別損失合計	290	11
税金等調整前四半期純利益	324	851
法人税、住民税及び事業税	197	251
法人税等調整額	△87	88
法人税等合計	109	340
少数株主損益調整前四半期純利益	214	511
少数株主利益	2	47
四半期純利益	212	463

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成22年5月1日 至平成23年1月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年5月1日 至平成24年1月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	214	511
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	—	△0
持分法適用会社に対する持分相当額	△0	—
その他の包括利益合計	△0	△0
四半期包括利益	214	510
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	212	463
少数株主に係る四半期包括利益	2	47

(3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(4) セグメント情報等

I. 前第3四半期連結累計期間(自 平成22年5月1日 至 平成23年1月31日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント					調整額	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)
	飲食店向け 機器販売 事業	内装工事 請負事業	リース・ クレジット 取扱事業	その他 事業	計		
売上高							
外部顧客への売上高	7,300	573	420	66	8,360	—	8,360
セグメント間の内部売上高 又は振替高	344	—	—	—	344	△344	—
計	7,644	573	420	66	8,705	△344	8,360
セグメント利益 又は損失(△)	612	△54	4	20	583	—	583

(注) セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っています。

II. 当第3四半期連結累計期間(自 平成23年5月1日 至 平成24年1月31日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント					調整額	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)
	飲食店向け 機器販売 事業	飲食事業	リース・ クレジット 取扱事業	その他 事業	計		
売上高							
外部顧客への売上高	7,808	2,365	529	38	10,740	—	10,740
セグメント間の内部売上高 又は振替高	222	—	—	—	222	△222	—
計	8,030	2,365	529	38	10,963	△222	10,740
セグメント利益 又は損失(△)	711	103	10	11	837	△22	814

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額△22百万円の主な内容は、各報告セグメントに配分していない
 い全社費用です。全社費用は、主にグループ全体の管理業務に係る費用であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っています。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

(6) 重要な後発事象

該当事項はありません。